

研究員レポート

3年で見える統合報告書の変化 – 業界動向・ポジション –

当レポートでは、2016年から2018年まで3年間の継続発行が確認できた167社の狭義の統合報告書※を調査し、様々な記載内容の変遷を追っている。今回は、統合報告書における業界動向やポジションを示す定量データの記載状況を調査し、報告する。

※ 狭義の統合報告書：統合報告書等のレポート名、IIRCフレームワークへの言及がある報告書、WEB等で統合報告書等と謳っている企業の報告書を指す

<レポートサマリー>

- 業界動向・ポジションに関する定量データの掲載企業は3年間で9.6ポイント増加
- 競合との比較が一目で分かるポジショニングマップの掲載事例はごく少数

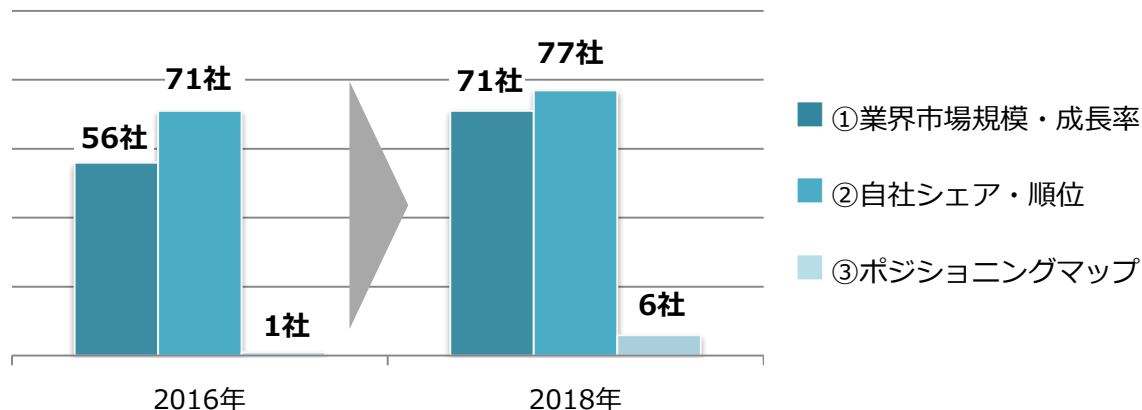
成長戦略やビジネスモデルの持続性を理解するためには、「どのような武器で、どう戦うか？」という情報だけではなく、ビジネスを展開する市場の規模や成長率、競合分析、その中の自社ポジションなど「どこで、何を相手に戦うか？」という情報が必要だ。IIRCは国際統合報告フレームワークの中で、内容要素の一つとして外部環境を挙げ、統合報告書とは「組織が短、中、長期的に価値を創造するために外部環境及び資本と、どのように相互作用するかについての説明を目指すもの」としている。また、経済産業省の価値協創ガイダンスにおいては、「ビジネスモデルを理解し、その実現可能性を評価するためには、ビジネスモデルが前提とする主な市場の付加価値連鎖（バリューチェーン）と競争環境、その中における自社の立ち位置、競争優位をもたらす差別化要素等を把握す

ることが必要である」と指摘している。

では、各社の統合報告書において、これらの業界環境はどのように説明されているのだろうか。今回は、業界や製品・サービスなどの市場規模や成長率、業界におけるシェアや順位などの自社ポジションを定量データとして開示している事例を調査した。何らかの業界動向・ポジションに関する定量データを掲載した企業は、2016年は88社（52.7%）、2018年は104社（62.3%）となり、この3年間で16社（9.6ポイント）増加した。

各社が掲載しているデータを種類別で見ると、市場規模・成長率など業界に関するデータ（①）の掲載は、2016年は56社（33.5%）、2018年は71社（42.5%）とな

<定量データの記載>



り、シェアや順位など自社のポジションに関するデータ (②) は、2016年は71社 (42.5%)、2018年は77社 (46.1%) となった。なお、競合との違いが一目で分かるよう、ROEや時価総額などの指標を縦軸／横軸で自社と競合をプロットして位置づけを示すようなポジショニングマップ (③) を掲載している事例は、2016年は1社、2018年は6社であり、こうした情報提供を行っている企業は増加したもののまだまだ少数派だ。

市場の規模や成長可能性、業界における自社の立ち位置を示す客観的なデータは、どのような市場・事業領域を攻め筋とし、競争優位性を保っているかを端的に示す有益な情報だ。また、企業が説明する成長戦略を理解する上でも、今後拡大すべき市場や取るべき手段が妥当かどうか、読者が評価する際の助けとなる。ゆえに企業は、市場データやポジショニングに関する情報を開示するのであれば、その分析とビジネス展開の方針を併せて説明すべきであり、実際、多くの企業において関連する説明がなされていた。

一方で、ある分野や製品において「業界シェア〇位」という表現はあっても、業界に存在する競合との比較を俯瞰的に示すポジショニングマップの掲載が少ないという点は、今後の課題といえる。こうした定量データによる開示は、時に言葉による説明よりも説得力を持って読者に訴えることができよう。情報開示においては、自社の伝えたいことを補強する客観的な定量データの活用を期待したい。